

リンゴ「ふじ」のわい化密植栽培における木の生育と収量の経年変化

青森県のリンゴのわい化密植栽培において、「ふじ」/M. 9 A（列間4 m×樹間2 m）を用い、栽植から30年間（1984～2014年）にわたり木の生育や収量を調査しました。その結果、収量を4トン/10a以上確保することができ、剪定が比較的容易で目標樹形を保持するのは10～20年生頃であることが分かりました。

☆ 技術の概要

1. 「ふじ」/M. 9Aを列間4 m×樹間2 mで密植栽培し、最上位側枝の高さを3 m、樹幅2 mとし、りんご生産指導要項（青森県）の細がた紡錘形を目標樹形として栽培しました。
2. 目標樹形に達するのは8年生からで、17年生以降は強勢となり、21年生以降は樹形を維持するために剪定枝の量が増えました（図1）。
3. 10a当たりの収量を4トン以上に確保できたのは11～26年生まででした。27年生以降は果実が小さくなり4トンを下回りました（図2）。
4. 以上のことおよび果実品質（小玉化や着色不良）の維持を考慮すると、収量を4トン/10a以上確保でき、比較的容易に目標樹形を維持できるのは10～20年生頃となりました。

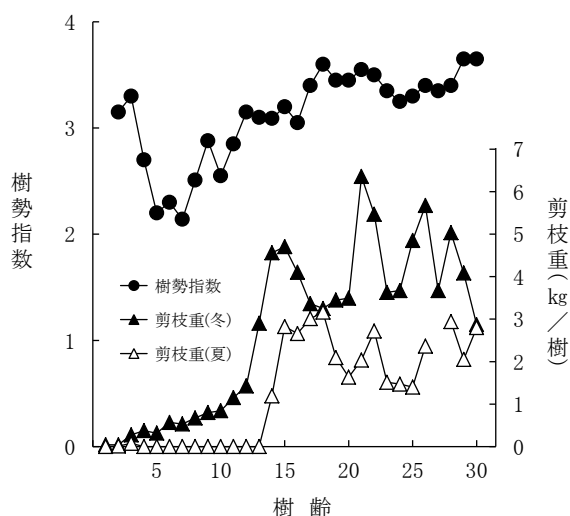


図1 樹勢指数および剪枝重の推移
 樹勢指数：1（著しく弱い）、2（弱い）、3（適正）、4（強い）、5（著しく強い）
 剪枝重：夏季の剪枝重は葉を含む

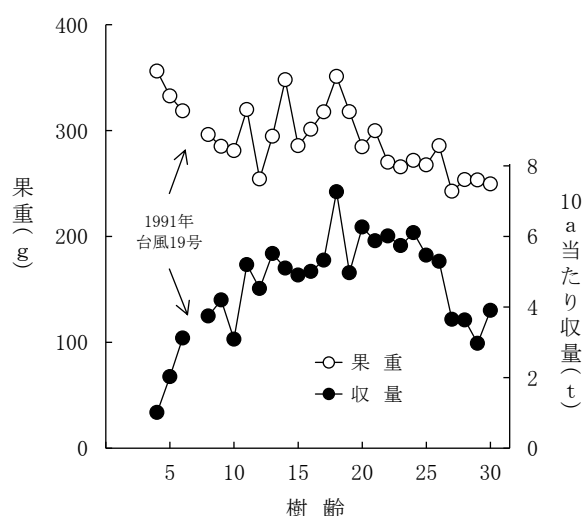


図2 果重および10a当たり収量の推移
 10a 当たり収量：1 樹当たり平均収量の値から125 樹/10a に換算した値。1991 年は台風19号による落下により未計測。

☆ 活用面での留意点

1. この内容は、栽植樹がすべて健全に生育した条件を前提としたものです。
2. 土壌条件や使用台木、栽植距離、樹勢などで異なる場合があります。
3. 詳細については、(地独)青森県産業技術センターりんご研究所（電話：0172-52-2331）にお問い合わせ下さい。

（農研機構 果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人）